

学会の動き

国際活動から

「地盤情報とハザードマップに関する国際シンポジウム」開催報告

International Symposium on Geoinformatics and Zoning for Hazard Mapping (GIZ2009)

GIZ2009実行委員長 三村 衛

International Symposium on Geoinformatics and Zoning for Hazard Mapping (GIZ2009) が、国際地盤工学会アジアテクニカルコミッティ (ATC) の ATC3「Geotechnology for Natural Hazards」:(チェアマン:東京電機大学・安田進), ATC10「Urban Geoinformatics」:(チェアマン:基礎地盤コンサルタンツ・藤堂博明), KG-NET・関西圏地盤研究会「KG-R」:(委員長:神戸大学・田中泰雄) の共催で、2009年12月3日～4日に京都市の京都テルサを会場として開催された(口絵写真—5～6)。また、地盤工学会と財団法人防災研究協会には後援をいただいた。本シンポジウムは、近年その重要性が広く認識され、各地で構築されつつある地盤情報データベースと、多発する自然災害の要因分析とゾーニング技術をハザードマッピングに向けて有機的に結合するための手法と課題について議論することを主たるミッションとしたものである。具体的には以下のようなテーマを扱った。

- 地盤情報データベースの開発
- 地盤情報データベースや GIS を用いたゾーニング手法
- 地盤災害のゾーニングに関するケースヒストリー
- 政策、建設、維持管理へのゾーニングの活用

投稿された一般論文は実行委員会の査読を経て論文集に43編が収録され、ビザの問題などで来日できなかった著者の3編を除く40編が2日間にわたり、6セッションに分かれてoral presentationによって発表された。また、招待講演として、沖村孝神戸大学名誉教授「Construction and Application of Geotechnical Database—A Case of KOBE JIBANKUN—」、京都大学・千木良雅弘教授「Hazard Mapping for Slope Movements from Geological Point of View」、トルコ Bogazici University・Atilla Ansal 教授「Case Studies on Microzonation for Ground Shaking Intensity」、UC San Diego・Ahmed Elgamal 教授「The NEES Web-accessible Database for Earthquake Engineering Research」の4題が、主題講演として、防災科学技術研究所・藤原広行博士「Development of Integrated Geophysical and Geological Information of Database and Their Management System on Sharing」、東京電機大学・安田進教授「Several Problems to be solved in the Application of TC4 Seismic Zoning Manual」、National Taiwan University・Mei-Ling Lin 教授「Seismic Micro-zonation of the Taipei Basin」、東京ガス・中山渉博士「Super High-density

Real Time Disaster Mitigation System for City Gas Supply with Enhanced Use of GIS」の4題が講演された。このほかに特別セッションでは、ATC10の活動(藤堂博明委員長)と科学技術振興調整費重要課題解決型研究「統合化地下構造データベースの構築」の一環として進めている全国電子地盤図構想(三村衛幹事)が紹介され、KG-Rセッションにおいて同委員長である田中泰雄神戸大学教授から関西圏地盤情報データベースとその活用についての紹介がなされた。

登録者は118名で、外国からの参加は9ヶ国、24名であった。オープニングセレモニーには、浅岡顕地盤工学会長、石原研而元国際地盤工学会長のご臨席を賜り、大変印象深いご挨拶を賜った。また、実行委員会として大変嬉しかったのは、両日とも常時70名を超えるセッション参加者を数えたことで、熱心な発表と討議が行われ、実り多いシンポジウムを運営できたのではないかと自負している。昼食を会場1階にある和室で参加者が一堂に会して弁当を食べていただくというスタイルに設定したところ、特に外国人参加者に喜んでいただいた。またシンポジウムバンケットが、初日の19時より72名の参加を得てリーガロイヤルホテル京都において開催された。特別企画として、宮川町の舞妓さんお二人に来場いただき、伝統の踊りを鑑賞した後、お二人とのゲーム、スナックショットタイムなどの時間をセットした(口絵写真—7)。宴は大いに盛り上がり、参加者にとって最も印象に残った一時となったのは間違いない。クローリングセレモニーでは、主催者である両ATCチェアマンから今後の活動計画が紹介され、この主題をテーマとしたシンポジウムを継続して実施していくことが表明された。ちなみに、次回のシンポジウムが3年後の2012年6月にマレーシアにおいてGIZ2012として開催されることが同国・University Sains MalaysiaのDr. Fauziah Ahmadから表明された。

なお、すべての一般論文、招待講演、主題講演、特別講演、KG-R特別講演を収録したシンポジウム論文集はCD-R編集となっており、若干の残部を保管している。当該分野の研究動向や情報収集のために購入を希望される場合は、実行委員長をはじめ、実行委員会関係者にお申し出いただければ幸いである。

最後に本シンポジウム開催にあたり、論文の査読をお願いした皆様を始め、運営に多大のご協力とご支援を賜った関係各位に、記して深甚の謝意を表するものである。

(原稿受理 2009.12.9)